

令和4年度前期通信教育部建築学科

担当科目	1) 現行授業の目標と教育効果	2) 自己評価	3) 授業改善・対応方法
03395 防災と建築	<p>建築には人命や財産を保全するという役割がある。東日本大震災やそれに伴う津波、阪神・淡路大震災などの巨大災害、あるいは都市型洪水などを事例に出すまでもなく、建築の歴史を振り返れば、地震や大火、風水害との戦いの積み重ねであったと言っても過言ではない。</p> <p>本科目では広く建築に係わる災害や事故を未然に防止する方策や、被害を軽減する方法について学ぶ。</p>	<p>レポート合格者の大半が、終末試験では、指摘事項の改善がみられ、より精度の高い答案が提出されていることから、レポートの添削を的確に行えていると評価する。</p>	<p>レポート評価と終末試験評価がそれほど変化がない、または、評価が下がる学生も若干いるので、通教オンラインで関連する情報を発信する。また、オープン教室等で丁寧に指導する。</p>
03386 建築デザイン論	<p>近代以降、デザインは「製造に先立ち形を造ること」と定義されている。これに従えば、建築デザインとは「施工に先立ち建築空間の形を造ること」と言えるだろう。</p> <p>建築デザイン論では、この「形」という面から建築を考えてみる。建築空間とそれを構成する建造物の形態について学び、どのようなデザイン手法によってこれらが造り出されていくのかを習得しよう。</p> <p>達成目標は、</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) テキストを通読し建築デザインの手法についての基本概念を学ぶ。</li> <li>(2) 建築を形態によって分析し、建築デザインの手法についての理解を深める。</li> <li>(3) 建築デザインの持つ広範な可能性や問題点について考察する。</li> </ol>	<p>レポート合格者の大半が、終末試験では、指摘事項の改善がみられ、より精度の高い答案が提出されていることから、レポートの添削を的確に行えていると評価する。</p>	<p>レポート評価と終末試験評価がそれほど変化がない、または、評価が下がる学生も若干いるので、通教オンラインで全国の著名建築施設情報を発信する。また、オープン教室等で丁寧に指導する。</p>
03379 設備計画学	<p>給排水衛生・防災設備、空調調和・換気設備、電気・通信設備について、現在の設備だけでなく、これまでの変遷、建築基準法との関わり等を含め理解する。そのために、必要な書籍等を探し、調べた内容について自分なりに理解し、まとめ順序立ててレポートする。</p> <p>建築においてデザインや構造といったように決して華やかな分野ではないが、建築においてなくてはならないものである上、デザインや構造を決定付ける非常に重要な要素である。こうした設備を学ぶことで、より建築への見方、考え方が広がる。</p>	<p>レポート合格者の大半が、終末試験では、指摘事項の改善がみられ、より精度の高い答案が提出されていることから、レポートの添削を的確に行えていると評価する。</p>	<p>レポート評価と終末試験評価がそれほど変化がない、または、評価が下がる学生も若干いるので、通教オンラインで全国のサステイナブル建築・コンバージョン施設情報を発信する。また、オープン教室等で丁寧に指導する。</p>
03351 建築造形A	<p>建物の機能は雨風をしのぎ、安全で快適に過ごせることであるが、その上、文化的で美しく、景観に調和した建物が建築といわれる。それでは建物の美しいかたち、すなわち建築のデザインとはどのようなことであろうか。</p> <p>雨をしのぐには屋根が、風を防ぐには壁がある。人間を空中で支えるには床が必要である。光や空気を導入するとか、外を眺めるのに窓を造る。このように建物の機能をそれぞれ果たす屋根、壁、床というもので建物は構成される。しかし「機能が形態をつくる」ということにとどまると建物は建築にならない。間取りをつくっただけでは美しく室内にはならないし、機能をはたす建物が並んでいるだけでは美しい街並みにはならない。建築の美しさや景観との調和は建築の機能ではなく、外観や色彩や素材感である。</p> <p>この科目では造形の基礎を学び、建築デザインの基本を修得することを目標としている。</p>	<p>一人一人丁寧にヒアリング・指導を心掛け、モノを作る意欲・楽しさを感じてもらおうように努めている。受講生に不合格者が居ない。</p>	<p>制作する量が多いことから、制作意欲が低減する傾向にある。早期に最終成果物イメージの掲示、アイデアを導くディスカッションの増加に努める。</p>
03354 建築設計Ⅰ-a	<p>住宅は、そこで子供を育て、また、家族を看取るなど、人生の多くの時間を過ごす生活の場である。さらに、建物の姿は道行く人々の眼にも否応無く触れる、地域社会の環境を構成する重要な社会的要素でもある。</p> <p>この科目では、「住まうための空間」を課題として、「建築計画」と「設計製図」、「プレゼンテーション」の基礎を学ぶ。高名な建築家も設計に際しては「スケッチに始まり、スケッチに終わる」のが常である。</p> <p>この授業では、小規模住宅を課題に、設計者としての立場に立って、住み手との対話をおして、造形物として空間デザインをまとめる手法と、「建築計画」の基本事項、およびそれらを的確に表現し伝える図法や表現法の基礎を学ぶ。</p>	<p>エスキスの回数を増やし、全受講生に対しこちらから席に向いて指導している。受講生に不合格者はいない。3日間で、学力が伸びていることを実感する。</p>	<p>作図の基礎・建築知識の少ない受講生が多く、授業内で、作図・スタディーの進め方、模型の作り方を講義する。</p>
03356 建築設計Ⅱ-a	<p>地域や社会と関わりのある、街に開かれた施設の設計を通して、公共性を持つ施設の建築計画についての基礎を学ぶ。</p> <p>企画の立案も含め、設計の意図を空間の構成やデザイン全般に反映させる手法を学び、また、周辺環境に適した施設を計画・設計する。</p> <p>設計を通して基本的な建築計画や設計表現手法を修得し、また、鉄筋コンクリート造等の構造計画や施設の設備計画についても理解する。</p> <p>コンセプトに基づいた提案性のある建築設計と空間デザインができる能力を養う。</p>	<p>最終成果物には、着色すること、スケッチパース・ダイアグラムの提出を義務付けているが、全員工夫をして提出している。授業中の講義・エスキス回数を増やす工夫による効果である。</p>	<p>構造・エスキスの進め方に、弱いところがあり、わかりやすい講義の工夫、パワーポイントなど教材の工夫で改善を試みる。</p>

03358 建築設計Ⅲ-a	計画地周辺の環境とのかかわりを意識しながら、比較的規模の大きな複合施設的设计課題に取り組み。 「建築設計Ⅱ-a」で対象とした中程度の規模、あるいは用途が限られた施設に比べ、設計にあたって検討すべき計画条件・法的・構造的な条件は複雑になる。これらの関係を的確に把握し、自らの発想で適切にまとめ表現する能力を養い、場を読み想像力を活かす設計の手法、プロセスを学ぶ。あわせて合意形成やプレゼンテーションの方法を身に付ける。	ワークショップ、現地調査により、共同作業・敷地・都市構造を読む力を養うことに成功している。	施設の複合化に対し戸惑う学生が多く、どのように取り組むか、わかりやすい教材を製作し、授業で使用する。
03399 都市計画学	本科目では、20世紀の近代都市計画の流れを学んだ上で、我が国の都市計画の制度や役割、技術を理解する。主に日本、及び欧米の都市計画の系譜をたどり、都市の要素としての建築を制御し、望ましいとされる都市の姿を実現するために考え出された、土地利用や交通計画、各種建築・都市施設の計画について学習する。また、こうした計画の技術・手法について、建築、街区・地区・地域という様々なレベルから体系的に理解する。そして現代の社会環境において都市計画が果たす役割や問題点を探り、建築設計・計画に都市計画・都市デザインの視点を持つことの重要性を学ぶ。	社会人が主体の通信教育では学生の地域での日常生活や仕事と学習内容の関連を理解することが重要である。 学習者になじみのある都市を取り上げ、都市計画学の基本を学ぶことで学習者の生活環境の形成のしくみが理解でき、他の科目も含めての学びと自らの経験とを接続し、建築や都市についてのより深い理解に繋がる手がかりが提供できていると考えられる。また、近代都市計画の概要を学ぶことで健在の建築、都市の課題や位置づけについても理解が進むと考える。	歴史については文献調査、また、事例として取り上げた都市についてのレポートでは現地や資料調査が欠かせないが、Webでの資料収集のみに留まる学生も少なくない。 オープン教室、その他で調査方法についてもアドバイスを充実できるよう工夫したい。
03376 構造力学Ⅰ	建築構造力学の基礎的な計算ができるようにする。 テキストを通して、できるだけ多くの演習問題にあたり、理解を深める。 最終的には自力で計算問題が解けるよう力学の素養を身に付けることを目標とする。 建築物は、自重以外にも風や地震、積雪などといった自然の外力を受ける。これらの外力に対して建築物は安全である必要があり、それを確かめるために行われるのが構造設計である。 本科目は、その構造設計を行う上で必要となる構造力学について学ぶ。力のつり合いや静定構造物と不静定構造物の違い、構造骨組・荷重の種類から始まり、静定構造物の反力・応力計算へと学習を進める。さらに部材断面形状における力学的特性や応力度、各種部材の設計、梁の変形そして基本的な不静定構造物の計算についても理解する。	面接科目である構造力学Ⅰ演習と連携して学習が進められるように工夫している。また、学習指導書を作成し、レポートや試験設題の対策に取り組みやすくしている。 通信科目であるため、質問から各自が学習しやすい内容とし、質問は通教オンライン・オープン教室(対面及びオンラインZoom)で受付を行い丁寧に対応している。	レポート添削や試験採点を見ると理解度に差がみられた。 計算が苦手な学生がいるので、分かりやすい教材作成が必要である。どこでつまづいているかなども今後確認していきたい。また、通教オンライン・オープン教室(対面及びオンラインZoom)などで質疑応答ができる機会を増やすことを考えていく。
03367 構造力学Ⅰ演習	建築構造力学の基礎的な計算ができるようにする。 テキストを通して、できるだけ多くの演習問題にあたり、説明を聞きながら理解を深める。 最終的には自力で計算問題が解けるよう力学の素養を身に付けることを目標とする。 「構造力学Ⅰ」の学習内容を補充する科目として、面接授業によって講義を行い、構造力学の基礎的な知識を修得する。 力学の基礎的な考え方、静定構造物と不静定構造物の違い、各種静定構造物の反力・応力の計算方法、断面の力学的性質、さらに部材の断面設計法や梁の変形について、テキスト等の演習問題を通して解説する。手計算による様々な解法を学ぶことで、構造物に働く力の流れや大きさ、変形状況を論理的かつ感覚的に理解し、構造設計を行う際に必要となる力学の素養を身に付ける。	構造力学Ⅰ演習は面接科目であり、直接、学生へ説明することができる。 計算が苦手な学生もいるが、3日間の集中授業を通して分かりやすい授業を心がけている。 対面授業後には復習用のオンデマンドコンテンツが視聴できるように設定を行っている。 対面授業と復習用のオンデマンドコンテンツの両方で学生が理解しやすい授業を今後も工夫していきたい。	授業がとてども分かりやすかったというアンケート評価もあるが、最終の課題を行うと結果に大きな差がみられた。授業を聞いていると何となく理解できているようだが、課題を行うと途中でつまづいているケースがある。 どこで間違えているかをしっかりと確認できるように復習用のオンデマンドコンテンツを視聴できるように設定している。オンデマンドコンテンツを今後も活かしながら、コンテンツの改善や新規コンテンツ作成も行っていきたい。また、質問等は通信科目と同様に通教オンライン・オープン教室(対面及びオンラインZoom)などで丁寧に対応していく。
03377 構造力学Ⅱ	実際の建築物に近い不静定構造物についてたわみ角法や固定モーメント法などの各種解法を用いて応力計算方法を習得することを目標とする。 不静定構造物の応力算定について高度な計算知識と理論の修得を必要とするたわみ角法や固定モーメント法などの解法により計算する。また、構造物の塑性変形や崩壊メカニズム、保有水平耐力について理解する。	構造力学Ⅰに比べて難解な内容であるが、レポートや試験結果をみるとおおむねテキスト学習ができているようである。 通信科目であるためテキストから各自が学習しやすい内容とし、質問は通教オンライン・オープン教室(対面及びオンラインZoom)で受付を行い丁寧に対応している。	テキストから学習はできているようであるが、構造力学Ⅰのような学習指導書があればより理解が深まると思われる。また、通教オンライン・オープン教室(対面及びオンラインZoom)などで質疑応答ができる機会を増やすことを考えていく。
03384 建築法規	建築物をつくる上で必要となる建築関係法規の基礎知識を習得し、建築設計や施工、監理などで活用できる能力を身に付けること、さらには将来、建築士試験の資格取得のベースとなる法令知識を養成することを目標とする。 わが国で建築物を建てる場合には、様々な法律が関わるが、建築物自体の基準を定めた基本的な法律として建築基準法がある。 本科目では建築基準法を中心として、都市計画法、建築士法、その他の関連法令を体系的に学び、主要となる法令の目的や制限内容を理解する。図解テキストを用いながら法令の要点をおさえ、法令集より関連法令を調べる力をつける。そして建築士等の問題に取り組む、法令の理解をより深める。	学習指導書を作成し、レポートや試験設題の対策に取り組みやすくしている。 通信科目であるためテキストから各自が学習しやすい内容とし、質問は通教オンライン・オープン教室(対面及びオンラインZoom)で受付を行い丁寧に対応している。	レポート内容や試験結果をみると学生の理解度に差がみられるため、学習指導書の内容をさらに工夫していきたい。また、通教オンライン・オープン教室(対面及びオンラインZoom)などで質疑応答ができる機会を増やすことを考えていく。

03289 リサーチ演習	建築計画や都市計画のための適切な情報や資料を探ることができる。 量的研究と質的研究のために大量統計調査と少数精密調査を理解し使い分けができる。 目的に応じた調査方法と分析方法を用いることができる。	授業目標達成のための効果的な学習指導ができていると考える。	よくできたレポートが多い一方で基本的な質問も散見された。何かしらの補助教材が必要かも知れない。
03388 CAD I	立体的なインフィル空間に与条件を満たし提案性のある設計として2次元作図により建築図面として表現できること。	ユニテ・ダビタシオンをテーマとした課題の設定を行うことで学生が課題に興味を持ちやすい工夫を行った。 事前学習として、起こし絵図の要領で組み立てられるペーパークラフトのユニテ・ダビタシオンを用意し、居室の空間的理解をしてからスクーリングに臨めるよう工夫した。 配布資料としてユニテ・ダビタシオンの概要を示したものを、1/100でCADでトレースした図面、エスキス用紙を配布し、取り組みやすい工夫した。	指定テキストが絶版となりましたのでテキストは独自のものを作成しeラーニングを通じて学生に配信しました。予習・復習にも使える新たな教材も用意しスムーズな進行を目指せればと思う。 受講者過多で運営が困難な回がありました。年間を通じて平準化した受講機会が提供できることが望まれる。
03389 CAD II	建築を構成する主要素である「壁・柱・階段・ブリッジ」を用いて、奥行や高さに関する領域を、認識・操作できるようになること	抽象的な建築条件を設定し、造形的な条件を設定することで、既成概念の外へ向かわせる実践を行なった。 事前学習として半野外空間を有する建築の事例調査を課すことで、スクーリングでの取り組みに行かせる工夫を行なった。また、事前学習を授業の中で互いの調査結果を発表し情報を共有することで多くの建築事例を知る機会を設けた。 予習復習しやすいうようCAD操作のオンデマンド教材をeラーニングに用意した。	CADのバージョンアップや機能の変更、追加に伴って知識情報のアップデートと、eラーニングコンテンツのアップデートについてさらなるスピード感が求められる。
03390 CAD III	3次元CADによる立体的な建築表現に加え、マテリアルによるリアリティある表現ができること。 与条件を読み解き、複数階の建築としてまとめて提案できること。	3次元CADを用いた設計と表現の応用としてCAD IIから発展的な内容を盛り込むことを工夫した。 事前学習では平面図及び断面図を読み解いて外部空間との一体感を設計に取り込む工夫について学ぶこととした。また、CADI及びCAD IIのスクーリングを受講してから時間が経っていたり、スケジュールの都合でCAD IIを受講できずにCAD IIIの受講に臨む学生の為にCADI及びCAD IIの振り返りも触れていながら応用までできるよう時間の配分に気を遣った。	内容が盛りだくさんで時間が不足しがちである科目となるので、復習もしやすいようさらなるeラーニングのオンデマンドコンテンツの充実が望まれる。
03371 建築計画学 II	本科目では公共的な施設についての建築計画を学習する。 地域や社会に開かれた、公共性を持った建築物としては、学校、図書館、美術館、博物館、病院、福祉施設、コミュニティ施設、事務所などの施設がある。また、複数の用途・機能を併せもった複合施設もある。これらの施設は建築単体として成立するものではなく、社会のしくみを反映し、地域の生活や文化との関わりの中で計画されるものである。そのため、周辺環境に対する配慮や社会的寄与が求められる。こうした建物の計画の理論と方法論を代表的な事例などを参照しながら学習する。	レポート作成時に学習した建築計画の基礎知識が、終末試験の答案に反映されており、レポートの添削が適切に行われていると評価しています。	調べたことのまとめた記述に終始し、独自性が見られないレポートが多いので、取り上げている建築作品や計画手法に関連して、学生の関心をより深められるような情報を添削に含めることを意識しています。
03398 現代建築論	現代建築のデザインは多様であり、一瞥で把握できるものではない。これを理解するために必要な建築に関する広範な知識を身に付けることが第一の目標である。 基礎を身に付け建築を見る目が養われれば、現代建築が分かるようになり、楽しく感じられるようになる。日常的に最新の建築デザインに触れる習慣を身に付け、その中で興味を持った建築について調査研究を行なうのが第二の目標である。	レポートの題材として取り上げる建築作品や建築家に多くのバリエーションが見られ、受講生が本授業を通して現代建築への興味や知識を広げることが出来ていると評価しています。	調べたことのまとめた記述に終始し、独自性が見られないレポートが多いので、取り上げている建築作品や建築家に関連して、学生の関心をより深められるような情報を添削に含めることを意識しています。
03108 造形学原論	全ての造形作品は、主に形体や色彩といった造形的な要素を何らかの意図をもって空間の中に構成したものである。造形作品理解の基本は、その作品において「どのような要素が用いられているか」「どのように構成されているか」この二つである。 この科目では、基本的な構成原理を応用し、実際の造形作品がどのような構成に基づいてどのような要素を配置し組み合わせているのか、更にはそれがどのような意図に基づくものであるのかを分析的に考察できる力の習得を達成目標とする。	当該科目は、通信教育部通信科目の中では他教科に先駆け、2016年度から主教材として動画教材を中心としたデジタル教材による授業を実施しています。造形作品の構図、構造分析という抽象的で難易度の高い課題に、対面の指導ではない通信授業で取り組ませるものであるが、提出されたレポートの質を見ると動画教材による学習が功を奏していることがうかがえます。 評点のための評価シートを作成することで、より具体的に評点の基準、根拠を伝えることができるようになりました。	昨年度、さらに学習成果を高めるため考察対象の作例を選択する上でのポイントをまとめた動画教材を追加することを検討したがまだ表現にいたっていない。この教材を制作することでより学習効果の高い授業にしていけることを検討しています。

03151 デッサン基礎	作品発想の手法、伝達の手法として、頭の中で造形を思い描く力、それを表現できるデッサンの技術、考え方を習得する。	対象を観察し正確に再現的描画をするという一般的なデッサンの授業の方法に捉われることなく、築学という分野における造形基礎力養成のためのデッサンのあり方を独自に考案した授業である。 対象再現的な表現ではなく、ひとつは造形物を構想するためのデッサン、もうひとつは建築の実務の中でコミュニケーションのために必要なデッサンというふたつの力を養成するための独自の課題を实践している。また、透視図法を理解させるため糸を使ってデッサンさせる手法もオリジナルの教授法も取り入れています。建築学科に特化したデッサン教育としては効果の高い授業であると自負している。 コロナ禍により面接授業の代替措置として遠隔授業を行ったが、この時に作成した教材を活用し、本年度からオンデマンド授業も実施し、対面授業に出ることが困難な学生にも受講することができるようにしている。	スクーリングなどで教員が対面で直接課題について説明しながら授業を進めているが、予習、復習に資するため、また、台風などの災害による休講への対応策として自宅でも学習できる動画教材を作成しましたが、講評やディスカッションなどオンラインでの学習活動について設定し、充実させていくことを検討している。 オンデマンド授業では、課題作品の現物を郵便で提出させましたが、想像を上回る数の受講者があったため、処理に手間がかかった。次年度からは課題提出をオンラインで行うことにする予定である。
03152 立体造形基礎	<ul style="list-style-type: none"> <li>素材の特性を活かした造形表現ができるようになる。</li> <li>発想の手法を理解し多様な造形を表現できるようになる。</li> <li>テーマ、目的、表現意図に応じた立体造形表現ができるようになる。</li> <li>今後の建築造形学習の基礎となる発想法や技法を習得する。</li> <li>自身の作品について発表できるようにする。</li> </ul>	当該科目は創造的活動の発想プロセスを理解し経験させることに重点を置いた科目であり、概ねその目的は達成できていると考える。目的から発想する造形ではなく、方法から発想する造形という、これまで受講生が体験したことのないであろう造形経験をさせている。最初は戸惑いがあるものの、最終的にはそうした発想法の実効性を理解させられているという手応えが感じられる。 作品の良さ、味わいについても指導しているが、これは頭で理解するだけではなく造形作品を多く味わうことによって感性を磨くことが必要になってきます。これを3日間の短い期間の中でどう身に付けさせるかという点についてはまだ改善の余地があると考える。	造形の良さを味わうのは感性によるところが多くものではありませんが、感性と知識は協調するものですので「頭で理解する」部分の指導のための教材の工夫が必要と考える。 今年度からはじめた毎日の振り返りレポートは学習成果の定着に極めて有効だと考えている。今後もレポートの内容の精査に加え授業へのフィードバックについて引き続き検討していきたい。
03153 デザイン基礎	造形作品構想の手法、原理とプロセスを理解し実践することができるようになる。 造形表現の基本的要素である色彩、形体、構成の表現力と理解し効果を考えながら平面および立体構成作品を制作することができる。 グリッドシステムを活用し効果的に要素をレイアウトすることができる。	デザインとは目的を達成するための計画を意味することである。目的に合致した造形、提案性のある造形を作る力が必要となる。その前段階として、まず、多様に造形を発想する手法を学ぶ学習が必要であり、それが本授業の位置づけである。 拡散的思考段階と収束的思考段階という創造的発想モデルに基づき、目的に応じたアイデアスケッチのあり方とその意義、既存のデザイン作品から配色や形態、構成をサンプリングして制作に生かす手法、コンストラクション・グリッドを活用した造形の展開など造形発想の基本的な手法を盛り込んだ授業となっている。これらの手法を学習することにより、造形に対する苦手意識を払拭できたという学生の声を多く聞くことができ、高い成果を上げることができていると考える。	今年度からはじめた毎日の振り返りレポートは、学生からの反応もよく、学習成果の定着に極めて有効だと考える。 今後もレポートの内容の精査に加え授業へのフィードバックについて引き続き検討していきたい。
03154 美術史	古代から20世紀末までの、西洋美術の流れを理解することを目標とします。 具体的には、テキストを通して、それぞれの時代を特徴付ける表現様式を理解し、代表的な作品、芸術家（画家、彫刻家、建築家など）を知って、見て、感じてもらい、理解を深めてもらいます。	レポートでは、西洋絵画における近代とは何か、という問題について美術史全体の流れや時代、様式との比較の中で考察するという課題を課している。このように設定したテーマが美術史を考えるひとつの視座を与えることになり、学習効果を高めていると考える。	レポート、試験などで気づいた点、例えば多くの学生に共通する誤解や、テキストの内容を補う情報など逐一発信していくことが有効であると考えているが、現状の通教オンライン（UNIPA）では、そうした活動ができないため、別の方策を考えなければならないと考えている。
03249 近代デザイン史	社会とデザイン運動との関係を理解し、デザインワークに役立てることが出来る。	通信科目では、学習の主体はテキスト学習となるため、基本的に各学生に対する教員からの声かけはレポート添削の講評だけです。そこでこの基調な機会を有効に活用すべく、ただ正誤を伝えるだけでなく極力丁寧な解説を加えるよう心がけている。	レポート、試験などで気づいた点、例えば多くの学生に共通する誤解や、テキストの内容を補う情報など逐一発信していくことが有効であると考えているが、現状の通教オンライン（UNIPA）では、そうした活動ができないため、別の方策を考えなければならないと考えている。
03281 環境造形基礎A	デッサンを学習する目的を理解する。 デッサンで使用する用具を理解する。 線、面、明暗といった基本的な要素の描写のしかたを理解する。 平面の紙の上に立体感、空間感を表現できるしくみを理解する。 形体や明暗、位置関係の観察方法を理解する。	デッサン本制作に至るまでの基礎的な技術、理解を高めることに重きをおき、初學者でもステップバイステップでデッサン表現に臨めるように工夫した課題構成となっている。 実技は文字や図表よりも実際にやってみせることのできる動画教材が有効であると考え、通信教育部通信科目の中で最も早い2014年度から動画教材を中心としたデジタル教材による授業を実施している。 通教オンラインeラーニングサイトでは単に教材の発信だけではなく、随時学生作品を参考事例としてアップしたり、添削の中で気づいた多くの学生に共通する欠点に関するフィードバックを行うなど、随時情報発信できるオンライン学習の利点を生かした授業を行っている。	課題添削の中で得た知見を基に追加の動画教材を作成する必要を感じている。また、昨年度、添削にも動画を活用する方策を探っていくことを検討していくと述べたが、まだ実現に至っていないため次年度には開始したい。

03282 環境造形基礎B	美しい造形物とは何かを理解・制作でき、将来のデザイン・造形活動に生かすことが出来る。	デザイン学科募集停止に伴い様々な授業を前担当者から受け継ぎ、自身の教育理念に基づき新しい授業内容に改定してきたが、当該科目だけはいまだに前担当者の実施した内容のまま担当している。通信科目において直接対面で指導することができない状況で作品を政策させることは簡単ではないが、特に立体造形物や材料や道具の使い方など初めて取り組む学生には困難が伴っていると考える。現段階でもそのあたりの指導には不足を感じていることについて昨年度述べたが、本年度まだ改訂ができていない状態である。	現在の内容はデザイン学科があった時の美術を学ぶ学生もしくは美術教員になる上での教材研究的な意味合いのある内容だったが、現在当該科目を受けているのは建築学科の学生のみです。他の私の担当科目同様建築学科学生にとってより有効な授業にすべく、引き続き内容の改定を検討していく。
03283 環境色彩学	物理的、生理的側面から色彩を理解することができる。 色彩の分類、整理、体系化について理解することができる。 色彩の感情効果、生理的作用、配色原理を理解し、作品制作に活用することができる。	様々な平面造形作品から配色をサンプリングさせ、それをテキストの理解に基づき分析、考察させるという学習内容は、知識面のみではなく、作品を構想する力を養うのにも有効であると自負している。 当該科目では2016年度から動画教材を作成し副教材として使用している。 レポートについては、2021年度から内容を充実させ、さらにオンラインでの提出ができるように設定し、学生の利便性を向上させることができたと考える。 評価についても評価項目を細かく設定し、これにより学生が自身の達成度を知ると同時に振り返り学習が有効に行われるようになったと考える。	随時情報発信可能なオンラインの利点を生かし、学生のレポート添削を通じて必要と思われる情報を随時発信していく必要があると考えているが、現状の通教オンライン（UNIPA）にそうした機能がないため、別の方策を考えざるをえない状況である。
03344 卒業研究 I	在学中に修得した建築や造形デザインの知識、技術、センスを活かして、その集大成を研究作品として卒業設計・論文にまとめる。 建築・造形という分野の中で研究の意義を熟考した上でテーマを選定し、担当教員の助言・指導のもと調査・研究を進める。 成果は最終的に作品パネルや模型あるいは研究論文としてまとめ、研究発表を行う。 研究を通して、設計者・技術者として必要となる洞察力や表現力を身に付ける。	卒業研究は通信科目(卒業研究I)と面接科目(卒業研究II)の組み合わせで、約半年をかけて進められる。このうちオリエンテーションから発表までの間の研究を支える部分が通信科目(卒業研究I)であり、通信科目ではあるが希望者にゼミ形式での指導を月1回程度開催している。このゼミはオンラインでも参加可能であり、研究室に常時属さない社会人が研究を進めるしくみとしては一定の成果が上がっていると考えている。	丁寧な指導を行うが、長期戦の為、途中何度か、ペースが極端に落ちる傾向にある。いかに持続的に研究活動を促すかが課題であり、ゼミの回数を増やすことと、毎回ゼミの課題が提出図書に何らかに関連するように努める。
03345 卒業研究 II	在学中に修得した建築や造形デザインの知識、技術、センスを活かして、その集大成を研究作品として卒業設計・論文にまとめる。 建築・造形という分野の中で研究の意義を熟考した上でテーマを選定し、担当教員の助言・指導のもと調査・研究を進める。 成果は最終的に作品パネルや模型あるいは研究論文としてまとめ、研究発表を行う。 研究制作と指導・助言を通して、設計者・技術者として必要となる洞察力や表現力を身に付ける。	卒業研究は通信科目(卒業研究I)と面接科目(卒業研究II)の組み合わせで、約半年をかけて進められる。このうちオリエンテーションと2回のプレゼンテーションの部分が面接科目(卒業研究II)である。特に成果物の発表を2段階にした点は、他のゼミ、他の学生の状況確認も行なえる点で、成果物の質向上を図る上で一定の成果が上がっていると考えている。	造形学部であることから、発表はパネルを使ったプレゼンテーション形式で行なっているが、今後卒業研究の幅を広げていく中で、別の評価形式も模索する必要があると考えている。 丁寧な指導を行うが、長期戦の為、途中何度か、ペースが極端に落ちる傾向にある。いかに持続的に研究活動を促すかが課題であり、ゼミの回数を増やすことと、毎回ゼミの課題が提出図書に何らかに関連するように努める。









